

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	子どもデイサービスみらくる				公表日	令和7年 2月 17日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		場面に応じて室内を構造化をしたり、人が密集したら別の場所に誘導している。	身体を動かして体幹を鍛えるための場所が狭いので、その中で出来る療育を行っている。来年度は、敷地内に運動が出来る場所を確保する予定である。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		配置基準を満たし、更に利用人数や個々の利用者の必要性に応じた人員で対応している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	室内の段差をなくすようにし、安全に過ごせるようにしている。特性に合わせた伝達法で、対応している。場所の構造化をし、集中できる空間を提供している。	2階にあるため、外階段を安全に昇降できるように、見守りを徹底している。また、万が一転倒した際の衝撃緩和のためにマットを設置している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		環境整備に努めている。こども達の活動に合わせて場所の構造化を行って対応している。	現在は大きな身体運動は難しいが、来年度は、敷地内に運動が出来る場所を確保する予定である。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	個室の常設はされていないが、利用者さんに移動してもらい、適宜対応している。	クールダウンする場所を確保できるように引き続き工夫する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		ご利用前のミーティング時に前回の課題などについてより良い支援に繋がるような話し合いをしている。学習ミーティングは、毎週行っている。	休みもあるが、職員全員が参画できるように情報共有できる業務日誌の使用を更に工夫する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		貴重なご意見を一件ずつ検討し、改善を行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティングや面談を通じて意見を把握し、話し合いの場を持って業務改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者機関との連携および契約が必要だが今のところ行っていない。
10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		ミーティングを毎回行い、支援向上に向けた研修も全員参加できるように期日に配慮して開催している。	録画をするなどして、研修の振り返りや実践力向上に繋がるようにすることを目指している。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		個の特性を踏まえて現況の様子を捉えて、こどもと保護者のそれぞれの思いや課題を日々の支援の中から見出して記録し、ニーズに合った計画作成をしている。	こどものニーズを引き出すことや、保護者のニーズとこどものニーズのすり合わせを的確に適時行える能力の向上が課題である。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		放課後等デイサービス計画作成には、職員全員がこどもが目指す姿を意識して検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		見やすい位置に貼付し、利用前に確認しながら支援を実行している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		ビジョンアセスメントや太田ステージを実施している。日々の行動観察記録をアセスメントしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個に応じた計画となるように、ミーティングを行い支援内容を作成している。半年毎にモニタリングを実施し、具体的な支援内容が適切に設定されているかを確認している。「移行」の視点を取り入れて、療育の幅を広げる取り組みをしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		各担当ごとに話し合い、担当以外のプログラムも計画段階で全員の意見が反映できるように進捗状況が見えるように工夫している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		ねらいを達成するためのプログラムの内容をこどもの流行りに合わせて工夫して対応している。	下校時間が遅くなる日の療育が、楽しく興味を持ってさらに充実したものとすることが課題である。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		こども同士の関係性や当日の状況によって柔軟に集団活動や個別活動を実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		事前ミーティングを行い、職員の動きを綿密に確認し、チームとしてより良い支援を目指している。	長期休み期間は、前日の打ち合わせになるために、前日休みの職員への連携を記録以外で行うことが課題である。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に送迎職員以外で打ち合わせをし、帰所後に送迎職員との連携をしている。	日々の支援の気付きを個別のこども毎のより良い支援として職員全員で共有できるような工夫が必要である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録はこども毎に記録を残し、ミーティング時に活用している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリングを担当グループ毎に行い、必要に応じて全職員で話し合っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自己選択できるように、提案や選択をする等、こどもに合わせた支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		よく理解した職員が出席するが、事前に他職員にも聞き取りをして、会議に臨んでいる。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		連絡表を作成している。	連携には至っていないので、今後働きかける必要がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		下校予定表を提供してもらっており、お迎え時間に遅れる場合等連絡をし、学校と連携してこどもが不安にならないようにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		情報提供を受けることがあるが、相互理解には至っていない。	今後、情報共有と相互理解に努めていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		情報を提供する場合がある。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			連携が図れるような機会を作っていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			交流の機会を模索していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			協議会の内容を知らないなので、情報収集をする。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		電話やメール、連絡帳を使って、状況や課題を伝え、共通理解の下で支援している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		情報提供を適宜行っている。	家族参加の研修等を企画し、学び合える機会を作る必要がある。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に丁寧に説明し、必要の都度対面や電話で対応している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		こどもや保護者に適宜意向を確認し、支援に反映している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		対面で計画の説明を行い、同意の署名を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		「いつでも相談に応じる」旨を文書で通知し、相談に真摯に対応している。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		保護者の会を毎年行っている。	参加者が少ないため、今後、事業所主催の家族交流会など、楽しめる企画を考えていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応窓口を設けており、迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		通信配布により、活動報告をしている。HPで活動概要等を発信している。	SNSの活用を検討していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いについて、日々のミーティングで周知徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々に合わせた対応をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域住民との交流の場を持てるように、事業所を開放し、楽しく過ごしていただけないかを検討する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		ご利用者様用マニュアルを作成して配布している。年二回、曜日を変えて訓練を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		計画をもとに避難訓練等を定期的実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		事前に丁寧に聞き取りを行い、職員に周知している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーのあるこどもについては、詳細をまとめて事務所に掲示し、確認を徹底している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全管理に必要な研修や訓練を行っている。職員10ヶ条を唱え、安全な環境を意識して支援できるようにしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			日本で発生した大きな事故等を確認し、情報を積極的に取り込めるようにする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ミーティングを利用して、再発防止への取り組みを行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会や研修会を開催し、虐待防止の意識を高めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		拘束について、具体的場面を想定した研修やミーティングを行っている。		